

学校だより

NO 22

令和5年3月10日発行



伊勢市立倉田山中学校

伊勢市神田久志本町1645-2

校長 金森晃生

電話 22-9415

FAX 22-2198

E-mail

kuratayama@jr.ise-mie.ed.jp

学校教育目標 「心やさしく、思いやりの心を持ち、たくましく、知性豊かな倉田山中生徒の育成」

東日本大震災

みなさんは何を想う

2011年3月11日、14時46分、M9.0の大地震が起こりました。まだ幼かったみなさんですが、何か覚えていることはあるでしょうか。多分、みなさんの記憶にはないことだろうと思います。当時、私は卒業式も終わり、少しのんびりした気分で、部活動にいろいろと準備をしていたところでした。職員室にいた誰かが、インターネットのニュースか何かで「東北で地震が起こった」と言って、テレビをつけました。テレビを見たとき、最初何が起きているのかよくわかりませんでした。映画かドラマか何かの一場面を見るように、ぼーっと画面を見ていました。堤防近くの道から、車が、家が、船が傾いた状態で流され、ところどころに人影がある映像が映し出されました。その時でも「なにこれ。どうなっているの?」としか感じることができず、アナウンサーの悲鳴に近い声もどこか遠くの出来事で、人ごとのように感じていました。初めて見る悲惨な現実の光景を、現実と認識できませんでした。時間がたつにつれ、徐々に映画や作られた画像ではない、現実の世界だと認識した途端、怖くて不安で、心臓がドキドキするのを感じました。その後、さらに時間がたつにつれ、津波や地震の大きさ、多くの人の命が奪われたこと、原子力発電所のことなど、未曾有の災害であることがわかってきました。三重県から離れた、東北地方だけの災害ではなく、伊勢市でも「津波警報」が発令されました。

あれから12年が経ちました。その間、東北だけでなく、日本中、世界中から支援の手が差し伸べられました。施設や設備など形のあるものは、復興しているところも多くあります。街も新しく生まれ変わっています。しかし、人々の気持ち、意識はどうでしょう。まだまだ復興していないように思います。すべての復興はまだ道半ばです。いや、始まっていないところもあるのではないのでしょうか。特に、原子力発電所に至っては、なかなか計画通りに進まず、少しずつ故郷に戻ることはできていますが、家がなくなるなど、故郷に帰れない状況もあります。振り返ると、このような大惨事を、未然に防げたのかもしれない。しかし、残念ながら、失われた命は戻ってきません。私たちは、多くの人の犠牲を無駄にせず、命を守るために何を学んだのでしょうか。学校では避難訓練、防災学習、危機管理など命を守る学習をしています。しかし、まだま